

留学報告書 ～留学を終えて思うこと～

文藻外語大学

国際文化学部生（長期）

私は2018年の9月から約一年間、台湾の第二の都市と言われる高雄市にある文藻外語大学に交換留学しました。きっかけはとても小さな事で、私の父親が出張で海外に行く国際関係の仕事をしている事や、長い大学生活で何か新しいことにチャレンジしたいという思いで留学に行く決断をしました。これから大学の授業や私生活について話していきたいと思います。

まずは大学の授業についてです。はじめに、大学の授業と中国語の授業は全く別物で、中国語は華語中心という語学センターが行なっているもので基本土日祝日を除き毎日15時から2時間の授業があります。授業は1クラス10～15人程度ではじめのテストをもとにレベルにあったクラスに分けられます。私は前期の期間では初級クラスになり、日本人の他に、韓国人やフランス、ドイツなどさまざまな国の人がいました。日本にいた時に少し勉強していたのもあり、単語の部分についてはそれほど問題がなかったものの、発音とリスニング力は全くなかったのがその面についていくのが大変でしたが、先生方が丁寧に、ゆっくり教えてくれたのもあり、段々と力がついてきたことを実感しました。先生方の凄いところは僕らがわからない時でも、英語や日本語などの言語を使わず、中国語のみで教えてくれるところです。授業内容としては主に教科書をもとに進めていく感じですが、後半にはゲームやディスカッションなどを交えて中国語を学習しました。授業の他にも華語中心が行なっているサービスの1つでもある「小老師」と言う先生とマンツーマンでわからない部分や会話などを行ってくれるものもありました。冬休みに入り、前期期間に一番下のクラスになった事や、一年留学しているのだからこのままではまずいと危機感を感じ、冬休みの期間に中国語の特別な授業を取りました。その授業は先生と生徒2人で行い、平日の朝10時からお昼を挟んで15時までの4時間の授業でした。毎日4時間の授業の甲斐もあり、後期のクラス分けテストでは飛び級で上のクラスに行くことができました。後期の授業では、前期よりも難しい教科書を使い、テストではプレゼンテーションや先生と会話テストなどさまざまでした。授業のレベルは上がりましたが冬休みの講習のおかげもあり、最後までついていくことができました。

次は中国語以外の授業についてです。交換留学生は基本的に自分の好きな授業を選ぶことができます。もちろん中国語の授業がメインなので、選ぶことができるのはその時間外の授業です。私は前期後期合わせて英語、中国語、日本語の授業を履修しました。英語の授業ではスピーキングをメインに発表などの力を身につける授業と英語の長文読解の授業を取りました。どちらもオールイングリッシュでついていくのが大変でしたが自分の力を伸ばせたと感じます。後期でも英語のポエムの授業を履修しました。詩の深さや風景描写などを考えるので英語以外にも想像力や発想が養われました。後期に履修した應華系と言う中国語学部の授業では、就職活動や面接などに必要なスキルやテクニックなどを学び、時には実践形式で授業を行いました。この授業のテストでは面接官と面接者になり質疑応答や、マナーのテストを行いました。初めはついていくのが大変で落ち込んだ時期もありましたが、同じグループを組んだ台湾人の学生と一緒に協力し、テストも無事に合格できてよかったです。この授

業がオール中国語だったこともあり、自分の語学力をより一層成長させてくれたと感じます。日本人の全くいない授業を履修したおかげで、自分から主体的に活動することができ、とてもいい経験になりました。他にも日本語学部の翻訳の授業をいくつか履修しました。日本語から中国語が主な授業形式だったので授業はとてもよかったです。日本人にとってはわかりやすく中国語の上達にも良い授業だと感じました。日本語、日本人に興味がある学生も多いので友達を作るのにもいい機会になると思います。

次は私生活についてです。私は学校の寮ではなく、ダヤと言うアパートで一人暮らしをしていました。ダヤはワンルームのシャワートイレ付きの部屋、ウォーターサーバが各階に1つあり、屋上には洗濯機も付いています。水やお湯も出るのでよく利用していました。ダヤには24時間管理人さんがついており、何か困ったことがあればすぐに対応してくれるのでとても安心です。入居当時は中国語が全くと言っていいほど話せなかったのですが、説明や困ったことがあっても、うまく伝えられず、翻訳アプリを使ったりと大変でしたが日に日に実力がついていったおかげで後期には、ダヤに住んでいる学生だけでなく管理人さんとも仲良く話すことができました。あまり中国語がうまくない私にもダヤの学生たちは積極的に話してくれたり、時にはご飯にも連れて行ってくれ、とても優しくしてくれました。寮とは違い一人暮らしなので一人の時間が作れることでストレスコントロールができたり、自分の行動に責任を持つ必要があるので、勉強面とはまた別に、人間的にも成長できたと感じます。また門限がないので、週末などには一回の共有スペースや外で朝までお酒などを飲みながら会話をすることができるので寮にはない良さだと感じます。この日々の日常生活で中国語を使う場があることでより一層自分の中国語能力が伸びたと思います。休日は日本人だけでなく、中国語のクラスメイトや台湾人と様々なところに訪れました。中国語のクラスメイトは主に中間や期末テストの後に一緒にご飯会をしました。日本人だけでなく、韓国人やヨーロッパ系など様々な国の方がいたので、普段の授業ではあまり話さない自分の国についての質問や興味ある国についての話などもできたので良かったです。台湾人のお友達とは、バイクでよくショッピングや観光などをしました。中でもよく遊ぶ台湾のお友達とは観光地だけでなく、現地人だからこそ知る場所などにも訪れました。中でも印象に残ったのは台中と台東です。台中には台湾人3人と一緒に車で二泊三日の旅行に行きました。観光地で有名な「宮原眼科」という日本人の医師が開業した眼科をリフォームして作ったスイーツショップはユニークなお菓子だけでなく、スイーツショップには見られない独特な建物の造りをしているので映画の世界に来たような感覚になりました。また台中は東南アジアの外国人労働者がとても多く、街中ではスカーフを被った女性や東南アジア系の顔の人が非常に多く、台湾では珍しい雰囲気味わえる街でした。台中で一番大きな夜市は高雄とは比べ物にならないほど大きく平日にもかかわらず賑わいがすごかったのを今でも覚えています。台東は台湾人と二人で二泊三日の旅行でした。自分の住んでいた高雄市とは全く違い、空気がとても澄んでいて、自然豊かな街並みでした。泊まった民宿のコテージからは台東の美しい自然があり、近くには牛などが観られる牧場もありました。観光では、山の中にある動物園や観光地の「伯郎大道」、台東の綺麗な海などに訪れた疲れた体をリフレッシュすることができました。

初めは小さな理由から留学することを決めた私ですが、今は行けてよかった、出来ることならまた台湾に行き勉強したいと思っています。今回の留学が人生初の海外在住で語学だけでなく生活面でも不安なことでいっぱいでしたが、台湾という国はとても人が温かく過ごしやすい環境下でした。台湾に来て初めの月は全くと行っていいほど中国語ができず不安しか

ない生活になるかと覚悟していましたが、言葉の話せない私に対しても学生や住民は丁寧に説明してくれたり、英語や時折日本語なども交えながら会話を試みてくれました。人種は違えど同じ人間として、台湾人の優しさを感じさせられました。学習する上で、簡体字と繁体字の問題はありますが間違いなく私は中国よりも台湾での留学を勧めます。

また学習の面では日本にいたころとは違い、覚えた言葉やフレーズをアウトプットする機会がたくさんあるので語学力を伸ばす上ではこれ以上ない成長を感じられる場所だと思います。正直私は部屋で鉛筆を握った時間はそれほど多いとは思いません。それよりも周りの友達と積極的に話したり、お出かけに行くことで表現方法や話し方だけでなく、若者言葉なども覚えることができました。それもすべのこの環境があったからこそ得られたものだと思います。

もし今この文章を読んでいるあなたが留学に行くか否か迷っているのであれば、（経済的な理由は置いといて）行くことが可能ならば是非チャレンジして欲しいです。もちろん最終的には自分で決断することが大事ですが、必ずあなたの人生においてとても大切な経験の1つになります。私も実際、今までの人生で一番楽しい時間と経験を得ることができたと感じています。もし行くことが可能なら一年をお勧めします。半年はやっと耳やその国に慣れてきて楽しくなってきた時期なので留学を楽しみたい、語学力を伸ばしたい方は長期をお勧めします。実際半年の学生で1年に延ばした学生もいました。また経験だけでなく、そこで出会った人や新しい発見、日本以外の国を訪れ、そこで暮らすことで今まで見えてこなかった何かに出会えると思います。

私は留学を通して、一人の人間として大きく成長できたと感じています。今後もこの経験で得た主体性や協調性を大事にし、成長していきたいです。

最後にこの機会を与えてくれた親や文藻外語大学の方、サポートしてくれた関係者の皆様に感謝を申し上げます。

ありがとうございました。